

退職の挨拶



生物資源科学科 昆虫機能利用学研究室
川崎 秀樹

宇都宮大学に赴任して38年間、短いようでも様々なことを体験してきたことが思い出されます。赴任当時は、農学科・養蚕学研究室、名前からして今との違いが浮かび上がってきます。当時は、1学年45名で、女子学生は3名程度しか居なく、養蚕学実習も朝、昼、晩と3回、土日関係なく行われていました。とんだところに来たもんだという思いもなく、どうやって自分の時間を確保するかということを考えていました。働きながら博士号を取得することも義務付けられていました。養蚕業を背景に、家蚕の発育という観点から、翅原基の発達をテーマにしました。当時注目されていた遺伝子の発現、ホルモンの働き・定量、細胞・器官培養といった事柄を学びながら研究を進めました。生物学の発展は技術の発達と密接に結びついており、如何に自分の研究に新しい技術を取り入れていくかが研究の進展を左右します。私の研究も、形態観察、器官培養、ホルモンの定量から遺伝子工学の手法を用いる方向にシフトしていき、現在はカイコノゲノム情報も取り入れた遺伝子発現の調節の解析がメインのテーマとなっています。研究を始めた当初からは考えられないようなことが可能になっています。

2年前から、恩返しを兼ねて公開講座を開始しました。私の研究と関わりのある内容、関心を持ってきたことなどを地域の人と分かち合いたいと考えて始めました。普段読み進めないような本も必要に迫られて読んだり、自分の考えを整理できたりと個人的なメリットもあります。現在まだ荷物の整理中ですが、読む本の分野を広げたり、野菜を作ったりしています。野菜作りも種類が多いとそれぞれに育ち方や手入れの仕方が異なりなかなか飽きません。しかし、最も飽きないことは、論文を読むことのように、続けていきたいと考えています。末筆ですが、宇都宮大学が、地域と共に生きていけること、社会を担っていける人材を育てていけること、同窓の方達のご健康を祈ってペンを置きます。



生物資源科学科 動物機能形態学研究室
杉田 昭栄 (畜昭51卒)

平成元年に母校である本学に着任以来、思えば29年の月日が過ぎ、定年を迎えることができました。農学部在職中を振りかえってみますと、①30代～40代で学生諸君と一緒に実験をし、結果の喜びや失敗の悔を共有していた頃、②各種委員会等で学務運営、広報活動、入試などの学部運営へのかかわりで責任がでてきた40代後半から50代半ばの頃、③さらには50代後半からの学部はもとより全学運営への関わりの頃と、大きく3つのステージがあったように思います。その間、多くの先輩と同僚に恵まれ本日はあると思っています。一方、多くの学生と出会うことができました。出会いの数だけ人間模様という個性に出会うことになり私自身にとっての教育力、研究力の肥やしになりました。多くの研究も展開できました。学生諸君がやりたいことをテーマに位置づけたら研究対象の動物もネズミ、モグラ、カラスなどなんでもありという様になったわけです。しかし、その分こちらも指導上勉強をせざるをえなくなります。おかげ様で、思いがけない発見や成果にたどり着くことができました。いま振り返ってみますと、教壇に立ちながら縁があったその都度の学生に教えられてきたのだということを噛みしめております。その学生の個性が育まれる研究室づくりは一人で作るより世代のやや異なる複数の教員が上手く連携してこそ成り立つものと考えます。制度上の小講座はもはやなくなっていますが、対象あるいは手法の括りで教員同士の連携を豊かにし学生が多くの知に触れる機会が多い大学であり続けることを願っています。昨今、さまざまな制度を活用しながら農学関連の若い教員も少し増えていますので今後の農学部の活躍を楽しみにも感じております。

最後になりますが、充実した教員生活を過ごすことができました。この紙面をお借りしまして、皆様に心より御礼を申し上げますとともに、本学への支援活動を続ける峰ヶ丘同窓会の益々の発展を祈念いたします。

今年度定年退職予定の教員

平成31年3月をもちまして、以下の教員が退職されます。平成31年3月までの連絡先は、以下の通りです。

・居城 幸夫先生：附属農場 0285-84-1254 ijiro@cc.utsunomiya-u.ac.jp